

九鬼嘉隆の鉄甲船

九鬼嘉隆（1542–1600）は、強力な戦国大名・織田信長（1534–1582）の配下となった後、海戦で武功をあげてその名を知られるようになりました。また、嘉隆は失敗を恐れず新しいことに挑戦する造船工でもありました。

1576年の第一次木津川口の戦いにおいて、毛利氏の優れた水軍は信長の艦隊を壊滅し、信長は大敗を喫しました。嘉隆は毛利氏を倒す方法を見つけるよう命じられ、その答えとして、世界初の鉄甲軍艦とされる船を建造しました。これらの軍艦は大砲を搭載しており、大量の兵士を収容できました。

嘉隆はこの巨大な水上要塞を6隻建造し、1578年の第二次木津川口の戦いで600隻の毛利船団と戦いました。勝利をおさめた嘉隆は、褒美として鳥羽の領有を許されました。